

経済・金融
フラッシュロシアの物価状況(25年8月)
—前年比の低下基調が継続、8%台前半に

経済研究部 主任研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1818 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

1. 結果の概要:前年比で総合指数、コア指数のいずれも低下

9月10日、ロシア連邦統計局は消費者物価指数を公表し、結果は以下の通りとなった。

【総合指数(25年8月)】

- ・前年同月比は8.14%、市場予想¹(8.32%)より下振れ、前月(8.79%)から低下した(図表1)
- ・前月比は▲0.40%、市場予想(▲0.22%)より下振れ、前月(0.57%)からマイナスに転じた。

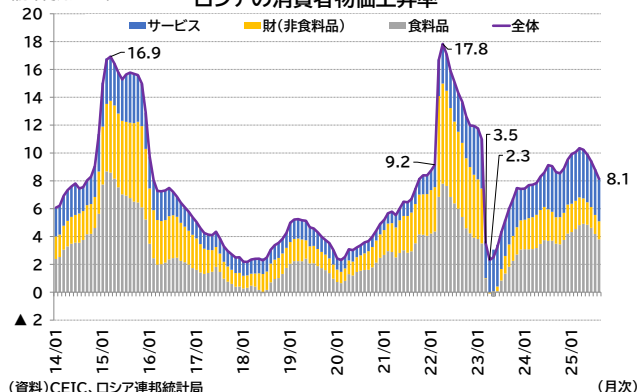
【コア指数²(25年8月)】

- ・前年同月比は8.04%、前月(8.53%)から低下した(図表2)
- ・前月比は0.14%、前月(0.25%)から減速した

(図表1)

(前年同月比、%)

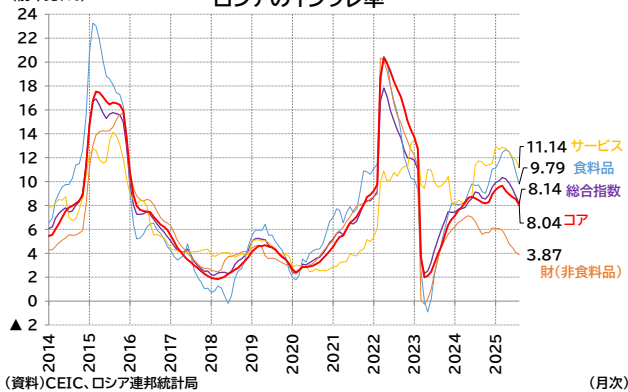
ロシアの消費者物価上昇率



(図表2)

(前年比、%)

ロシアのインフレ率



2. 結果の詳細:前週比のインフレ率は0%前後でインフレ圧力は強くない

8月のロシアのインフレ率は前年比で8.14%となり、7月(8.79%)から低下した。3月(10.34%)をピークに5か月連続で低下している。

インフレ率を大分類別に見ると、8月の前年比伸び率は食料品が9.79%(前月:10.79%)、財(非食料品)が3.87%(前月:4.07%)、サービスが11.14%(前月:11.85%)となり、いずれの大分類でも低下した。すべての大分類が低下するのは4か月連続となる。

前年比寄与度では食料品が3.8%ポイント程度、財(非食料品)が1.3%ポイント程度、サービスが3.1%ポイント程度と見られる(図表1)。

¹ bloomberg 集計の中央値。以下の予想値も同様。

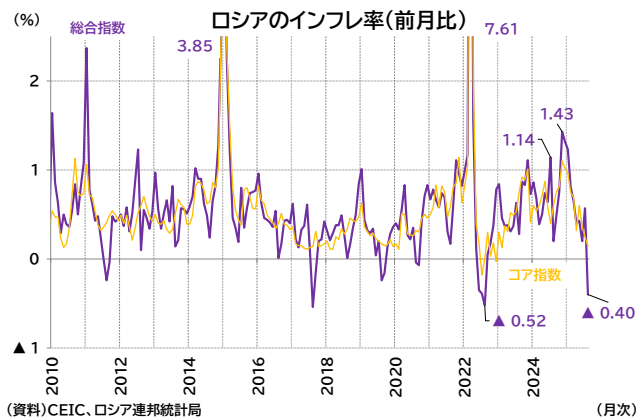
² 生鮮食品など季節的要因による影響を受ける品目や管理品目を除いた指数。

8月の前月比伸び率は、総合指数で▲0.40%（前月：0.57%）、コア指数で0.14%（前月：0.25%）といずれも低下した。総合指数はマイナス成長となり、コア指数もコロナ禍前の標準的な上昇率を下回った（2018年の前月比伸び率は平均で総合指数が約0.35%、コア指数が約0.30%、図表3）。

前月比伸び率を大分類で見ると食料品が▲0.91%（前月：▲0.64%）、財（非食料品）が0.42%（前月：0.19%）、サービスが▲0.62%（前月：2.69%）となった。8月は食料品が2か月連続のマイナスとなったほか、サービスがマイナスに転じた（なお、7月は公共料金の引き上げでサービス物価の上昇率が高かった）。

別途、ロシア連邦統計局が公表している週次のインフレ率（消費者物価上昇率）を見ると、最新の9月8日時点の前週比で0.10%となり、足もとはゼロ%前後での推移となっている（図表4）。

（図表3）



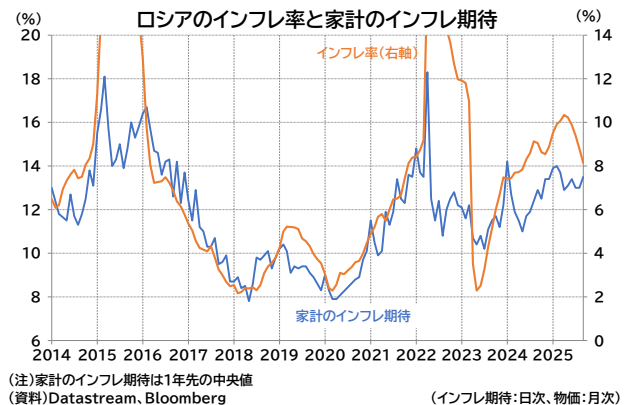
（図表4）



ロシア中央銀行が公表する家計のインフレ期待（1年先中央値、実際のインフレ率よりも高めになる傾向がある）は、8月は13.5%で7月（13.0%）からやや上昇した。なお、過去の傾向（期待インフレ率≒前年比インフレ率+6%、図表5）と比較すると、期待インフレ率と実際のインフレ率との乖離は実際のインフレ率が低下するなかで、大幅に縮小している。

品目別の上昇率を見ると³（図表6）、8月は前年比で魚・海鮮（20.83%）、乳製品（17.66%）、バター（19.90%）、文化サービス（16.76%）、乳製品（16.27%）の伸び率が高い一方、卵（▲22.14%）、テレビ（▲8.23%）、グラニュー糖（▲5.16%）などは前年比でもマイナスとなった。また、前月比では、目立って高い品目はなかったが、ガソリン（1.81%）の上昇率が相対的に大きい一方、青果物（▲10.02%）、旅客サービス（▲5.08%）の下落幅が大きかった。

（図表5）

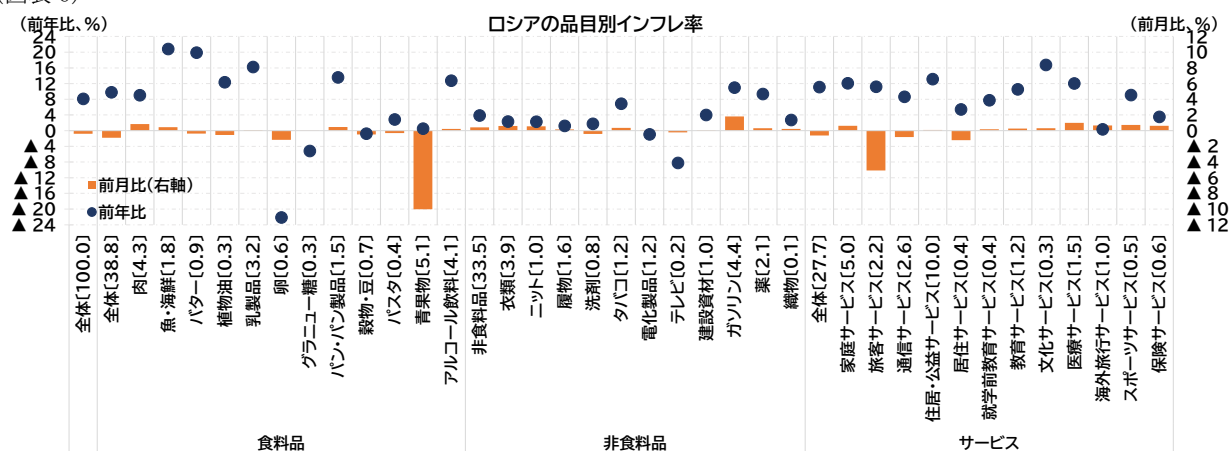


各品目の消費ウェイトも考慮して、全体のインフレ率への寄与を品目別に見ると（図表7・8）、前年比上昇率への寄与が大きい品目は住居・公益サービス（1.32%ポイント）、家庭サービス（0.60%ポイント）、下落率への寄与が大きい品目は卵（▲0.13%ポイント）だった。

³ 大分類である食料品、財（非食料品）、サービスをそれぞれ細目別に分類したもの（中分類）のうち、[統計局のウェブサイト](#)で公表しているものを記載。健康増進サービスおよび残差から算出されたその他サービスは前月比のみ。

前月比上昇率の寄与では、ガソリン（約0.08%ポイント）のプラス寄与が相対的に高い一方、青果物（約▲0.51%ポイント）、旅客サービス（約▲0.11%ポイント）、その他サービス（約▲0.10%ポイント）はマイナス寄与が大きくなっている。

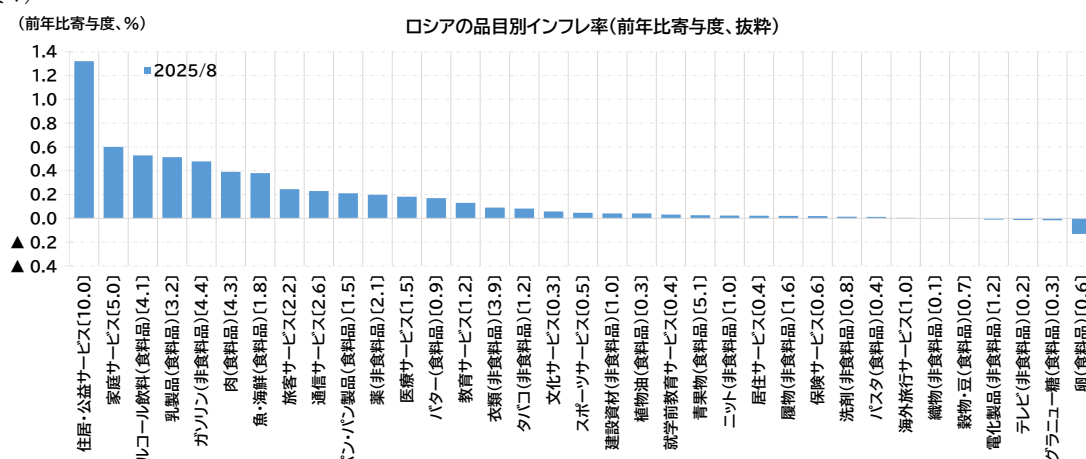
（図表 6）



（注）大分類の中のその他の項目は残差から計算、[]内はウエイト、全品目を記載していないため、品目のウエイト合計は100にはならない

（資料）CEIC、ロシア連邦統計局

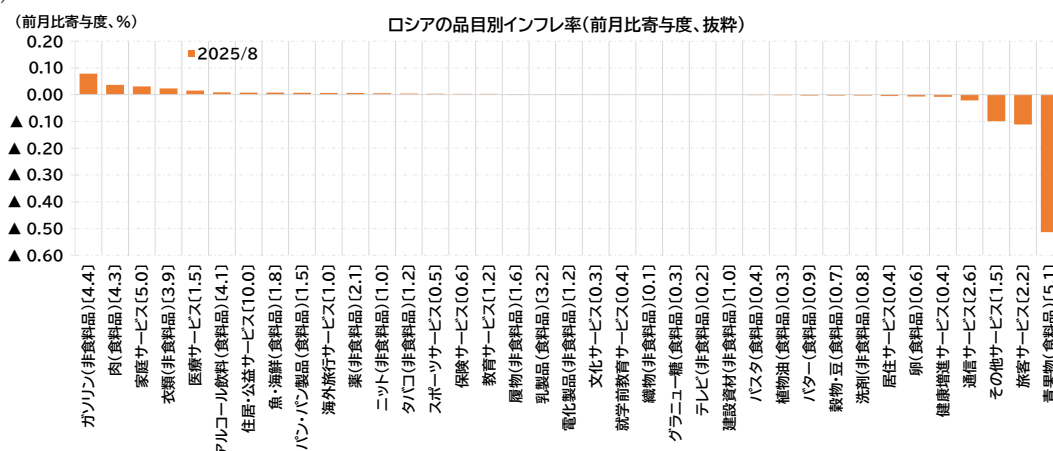
（図表 7）



（注）大分類の中のその他の項目は残差から計算、[]内はウエイト、全品目を記載していないため、品目のウエイト合計は100にはならない

（資料）CEIC、ロシア連邦統計局

（図表 8）



（注）大分類の中のその他の項目は残差から計算、[]内はウエイト、全品目を記載していないため、品目のウエイト合計は100にはならない

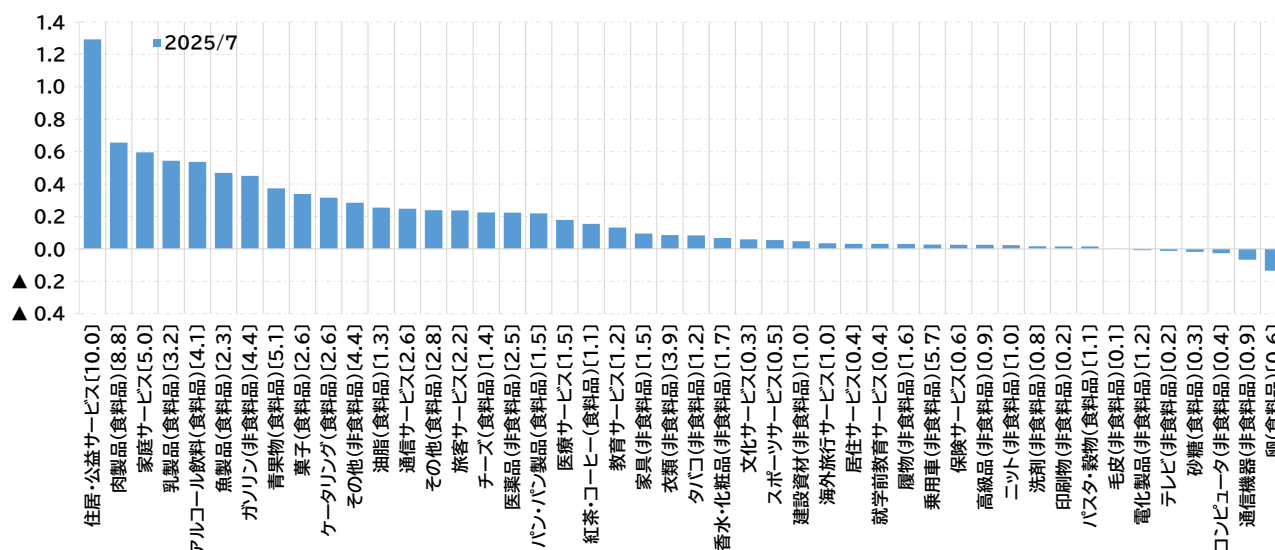
（資料）CEIC、ロシア連邦統計局

なお、現時点において統計局ウェブサイトで公表されていない品目も含む7月の上昇率寄与は
図表9・10の通りとなった。

(図表9)

(前年比寄与度、%)

ロシアの品目別インフレ率(前年比寄与度)



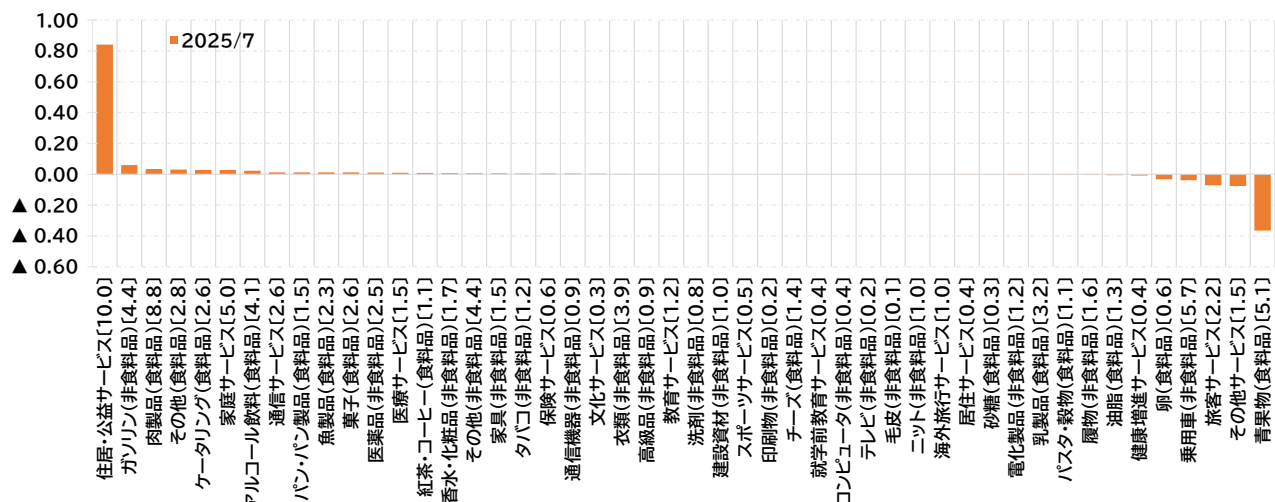
(注)各大分類の中のその他の項目は残差から計算、[]内はウエイト

(資料)CEIC、ロシア連邦統計局

(図表10)

(前月比寄与度、%)

ロシアの品目別インフレ率(前月比寄与度)



(注)各大分類の中のその他の項目は残差から計算

(資料)CEIC、ロシア連邦統計局

本資料記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と完全性を保証するものではありません。
また、本資料は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。